

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	胃癌に対する胃全摘後における術後経口摂取量について、開腹手術と腹腔鏡下手術での比較検討
	研究対象者	対象は、2011 年 4 月から 2015 年 3 月までに胃腺癌と診断され、胃全摘を施行し、R0 切除を達成し、術前・術後 30 日・術後 90 日に経口摂取に関するアンケートに回答できた症例を対象とした。
	研究目的	高度な生体侵襲を伴う外科切除では、異化が亢進し筋肉量が減少するため、それに伴う体組成の変化はその後の補助化学療法に影響することを報告してきた。胃癌術後領域においては、手術襲侵の影響だけでなく、経口摂取量の変化に伴う体組成変化の影響が大きいと考えられる。一方、腹腔鏡下手術は開腹手術と比較して低侵襲とされており、腸管運動を含めて術後の早期回復が望まれるが、腹腔鏡下胃全摘について体組成変化の一因を担う術前後の経口摂取量の変化については、これまでに十分には検討されていない。今回われわれは、胃全摘を施行した胃癌患者における開腹手術と腹腔鏡下手術での経口摂取量の変化と体重減少について比較検討を行う。
	研究方法	被験者に記載してもらった、経口摂取に関するアンケートの結果や体組成の測定の結果より情報収集
	個人情報保護	提供される患者さんの診療情報は、容易に個人を特定できないように匿名化して使用させていただきます
	研究期間	西暦 2023 年 6 月 26 日～西暦 2025 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック [X]が入った項目を利用します)	[_]試料:	[_]血漿、[_]血清、[_]全血、[_]末梢血から抽出した DNA、[_]病理検体(具体的に記載:____)、[_]尿、[_]糞便、[_]唾液、[_]胸水、[_]腹水、[_]脳脊髄液、[_]毛髪、[_]その他(具体的に記載:____)
	[X]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X]年齢、[X]性別、[X]既往歴、[X]併存疾患、[X]外来日・入院日・退院日、[X]臨床検査値、[X]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X]臨床所見・経過 (予後追跡データを含む)、[_]看護記録 [X]その他(具体的に記載:経口摂取アンケート、FFQ W-82)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	消化器外科 胃食道 田邊美恵
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター 消化器外科 胃食道 田邊美恵 利用停止のお申し出は 2025 年 3 月 31 日までお願いいたします	